

H. P. Report

第14号

発行責任者 三菱電機株式会社 北陸支社 官公システム課 稲崎義明

インターネット常時接続（2）

インターネットの常時接続としてその他の方法としてCATVによるものがあります。CATVは個人が利用できる常時接続サービスとしてはもっとも高速のもので、普通のISDNに比べて数十倍もの高速性が得られます。CATVはもともと電波障害の解消を元に始まり、都市部では電鉄会社などが、地方では自治体を中心となって広まってきたもので、多チャンネル化や独自放送などを行うために光ファイバーや同軸ケーブルを各家庭まで配線してサービスを提供しています。このケーブルを利用してインターネット接続サービスを行うのがCATVインターネットサービスです。インターネットのプロバイダもCATV事業者が行い、通信回線も自前ですから常時接続サービスを安価で提供することができます。通信速度は、提供事業者や上りと下りが違うことがありますが、32kbpsから10Mbpsの範囲で提供されています。また、契約によって通信速度に応じて通信費の設定がある場合がほとんどです。ただ、接続先のサーバや回線がネックとなってCATVの高速性を発揮できないこともあります。

このように非常に魅力的なCATVインターネット接続サービスですが、最大の欠点としてはもちろんCATVのサービスがされている地域であることが上げられます。使いたくてもサービスエリアでなければ使えませんし、立地条件でケーブルが幹線から引き込めなかったりすると利用することができません。また、インターネット接続サービスは、CATVの放送サービスの映像や音声伝送に利用されていない空きチャンネルを利用して行うために、空きチャンネルが無かったり、ケーブルによっては多チャンネルに対応していない場合もあり、もちろんその場合はサービスを利用することはできません。

CATVインターネットを利用する場合に必要なのは、CATV対応のケーブルモデムが必要となります。ケーブルモデムは一般のモデム、TAと同じですからあとはRS-232Cや10BASE-Tでパソコンとつなげば利用することができます。このケーブルモデムは普通のモデムと違うため高価になりますが、ほとんどの場合事業者からの貸与となりそのリース料が利用料に含まれています。

この他の常時接続サービスにADSLがあり、首都圏でサービスが始まっています。このサービスは、これまでの電話線をそのまま利用するもので、これまでの音声通話で利用していた4MHz以下よりも広い周波数範囲を利用し、さらに音声通話の使用帯域と重ならなければ同時通話することも可能で、利用する帯域を広げることによって高速通信を行うことができます。通信速度はISDNの8倍で、通信機器としては、ADSLのモデムと利用帯域によって音声通話とデータ通信を振り分ける「スプリッタ」が利用者側とプロバイダ側で使用する必要があります。このサービスは、ごく一部で始まったばかりで、速度は上り200kbps、下り200から600kbpsの高速通信がこれまでのケーブルでも利用できる場所に価値がありますが、NTTの進めるFTTHにより光ファイバーが各家庭までくるようになれば要らなくなるもので、つなぎのサービスということもできます。

CATVインターネット、ADSLともに高速の常時接続環境として魅力的なものです。今のところなかなか全国的に普及しているものではないため、利用者が限定される分知られていないのかもしれませんが。

(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 11月20日号

特集 不具合と付き合う

→連日、新聞をにぎわす不具合に端を発する事件。不都合がゼロとはならない状況で、問題となっているのは不具合ではなく不具合発生に対する対応。これまでとは違いネットワークでの個人の発表も可能になって適切な対応がなされないと経営に及ぼす影響も大きくなる。

解説 A I B Oは「2」でプレステを目指す

→A I B Oの2代目はインターフェース規格「OPEN-R」を採用することによってほかのソフトメカのプログラムの開発が可能になった。単独機能のロボットから「プレステ」を目指している。

○日経パソコン 11月27日号

特集 冬の注目周辺機器ベストバイ・ガイド

→いろいろな周辺機器がある中で、インクジェットプリンタ、デジタルカメラ、フラット別途スキャナー、CD-RWドライブ、無線対応TA/ルーターに絞ってこの冬の新製品の紹介。

講座 ホームページを作ろう(前編)

→I B Mのホームページビルダーを使っての簡単で見栄えのするホームページ作成教室。

レポート Pentium4はまだ速くない

→インテルの新しいCPUであるPentium4。PentiumProから改良を繰り返されてきた基本設計を新しくしたもので、初めから1.5GHzが出荷となったが、実際のスピードは1.2GHzのAthlonよりも性能が低い。さらにメモリなどを含め全面的に変わるため高くつく。もっと高い周波数にならないければ実力は発揮されない。

○日経バイト 12月号

特集 低価格ルータ活用術

→常時接続サービスの開始によってルータの世界が活況を帯びている。I S D Nに接続するルータはもちろん、CATVやADSLに接続するブロードバンドルータも普及によって製品の多様化が進んでいる。

特集 ActiveDirectoryを使いこなす

→Win2000の登場とともに登場したActiveDirectory。今のところ話題になっていないが、ネットワーク上のオブジェクトに関する情報を一元管理することによって煩雑な管理作業を簡単にするなどエンドユーザの使い勝手を向上する可能性を秘めている。

○INTEROP 1月号

特集 業務システムで使うLinux

→これまでインターネットのサーバ用OSとして使われていることの多かったLinux。このLinuxを業務用のOSとして捉えた場合、どこまでつかえるのか。クライアントとして使うにはアプリケーションが少ないため難しいが、開発環境の現状と業務システムへの導入事例を紹介。

○ASCII 12月号

特集 携帯電話進化論

→携帯電話がまた新しくなる。デジカメ録音機能搭載の多機能形態、java搭載の新iモード、PHSの動画像受信用端末など。来年にはIMT-2000が開始となる中で起こる革命的事件について新製品の予想ラインナップを含めて紹介

特集 不可能を可能にするシアワセPC拡張計画

→ビデオキャプチャカードを2枚挿しての裏番組録画対応、ノートPCでのデスクトップ並拡張など、ちょっとできたらいいあの拡張ワザ。

○PC STYLE 21 12月号

今月号、冬モデル、プリンタ、スキャナなどの紹介

○アスキー・PC 1月号

特集 大容量ハードディスク徹底ムダなし活用術

→10GBを超えるハードディスクが当たり前のこのごろ、それでも何でも入れればすぐいっぱいになってしまう。大容量のハードディスクをどうすれば無駄なく使えるか。基本のFDISKの使い方からディスク分割のやり方まで。

特集 表計算ソフトで100年住所録を作ろう

→年賀状のシーズン。住所録はどこへいったか。せっかく作るなら使いやすくほかのソフトとの連携もとりやすい表計算ソフトで。付録のCD-ROMと連動して使いやすい住所録を作る。

○DOS/V magazine 12月15日号

特集 インテルPentium4完全攻略

→マイクロアーキテクチャー的には386依頼の大改革を行ったPentium4。性能はまだAthlonにも及ばないが潜在能力は十分。その新しい技術を紹介。

特集 21世紀!!PCパーツ大博覧会

→CPU、マザーボードから面白グッズまで。ちょっと拡張してみるときの部品カタログ。

特集 BIOS設定攻めのツボ

→WindowsMeをきっかけにBIOSが変貌し、設定項目に見慣れないものが登場している。具体的な画面を中心にBIOSDの設定方法の紹介。